

長野県は県有地を活用して障害者を雇用する事業者に優先的に貸し出す取り組みを開始した。同県では初の試みで、プラスチック製食品容器製造の最大手メーカーであるエフピコが協力し、使用済み食品トレーやPETボトルなどのリサイクル選別業務を行う。

### ハートフル松本FVP

ハートフル松本FVP(長野県松本市、

0263・31・3136)は4月から松本市において就労継続支援A型事業を開始した。同社は親会社のFVP(東京都千代田区)と松本倉庫(長野県山形村)との共同出資で設立され、昨年2月長野県より「障害者総合支援法」による就労継続支援A型事業所の指定を受け、長野県有地の貸与により事業所を設立、4月1日に開所し

ンバー社員9人。

た。事業内容はエフピコとの業務提携により、使用済み食品トレーやPETボトルなどのリサイクル選別業務を行う。ス



長野県知事 阿部守一氏

4月22日、開所式を行い、来賓として長野県知事・阿部守一氏やエフピコ代表取締役会長兼最高

経営責任者の小松安弘氏が招かれ、それぞれあいさつを述べた。

開所式で代表取締役の大塚由紀子氏は「ヤマト福祉財団・理事長であった小倉昌男氏が、障害者の

月給が少ないのは能力が劣っているから

## PETボトル、食品トレーのリサイクル事業開始 障害者雇用で先駆的な取り組み

ではなく仕組みの問題であると言われて



食品トレーを選別するメンバー社員

「県有地活用した障害者の皆様の働くための施設、長野県では初めての試みだ。誰にでも居場所と出番がある信州を作ろうと取り組んでいるが、今日こういう形で障害者の方々が生き生きと働ける場所が大勢の皆様のご協力でできたことを嬉しく思う。エフピコ様はじめ大勢の関係者に御礼を申し上げます。どうか長野県における障害者雇用のモデルへ発展して欲しいと願う」と述べた。

「県有地活用した障害者の皆様の働くための施設、長野県では初めての試みだ。誰にでも居場所と出番がある信州を作ろうと取り組んでいるが、今日こういう形で障害者の方々が生き生きと働ける場所が大勢の皆様のご協力でできたことを嬉しく思う。エフピコ様はじめ大勢の関係者に御礼を申し上げます。どうか長野県における障害者雇用のモデルへ発展して欲しいと願う」と述べた。

エフピコ代表取締役会長兼最高経営責任者の小松安弘氏

「一昨年のクリスマスに県知事から打診があり、市、県が採算が合うだけの量が見込めるならという事で引き受けた。1枚当たりの目方が減っているため食品トレーの量を集めるのは以前より大変なのが実情だ。しかし、当社も全国数カ所で食品トレーを回収しリサイクルする拠点を設け、障害者の方々を雇用することで作業の正確性が向上するなど助かっている。またほとんど辞める方もいない。当社では未来のことを考え、さまざまなことに取り組んでいる。そのためにも知事、市長にはPETボトルや食品トレーが集まるよう協力をお願いする次第だ」と述べた。